



## 町長エッセイ



細川紙の手漉き和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録されてから、2年半が経ちました。

ゴールデンウィーク翌週の5月12日のことです。外務省大臣官房国際文化協力室の働きかけにより、ナミビア共和国出身のユネスコ総会議長スタンレー・ムツンバ・シマター氏が小川町を訪れました。私達は埼玉伝統工芸会館で一行をお迎えしました。東小川小学校の児童達がナミビアの国旗とユネスコの旗を振りながら笑顔で出迎えました。紙漉き体験を一緒に行い、児童達からの心温まるプレゼントを手にして、シマター氏は大変感激されていました。

また、細川紙技術者協会会長の工房での本格的な紙漉き見学ではいくつもの質問をなされたようです。

おもてなしとして町内で昼食を共にし、それぞれの国の文化や習慣の違いなどお互いに興味を持って語り、また、落語家で小川町出身の林家けい木さんも駆け付けたりと、話は尽きませんでした。その後、一行は満面の笑みで帰路につきました。

その流れで夕方にはテレビ埼玉のマチコミという情報番組で、けい木さんが小川町和紙体験学習センターに登場し、細川紙のできるまでを生放送でレポート。そこで早速小ばなしで一席「ご隠居！手漉き和紙はいつ作るんだい？」「手のすいた時さ」「誰が作るんです？」「そりゃもちろんワシだよ」・・・負けじと私もインタビューを受けながら小川和紙の魅力を大いに発信しました。

おあとがよろしいようで！！

松本恒夫